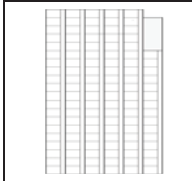
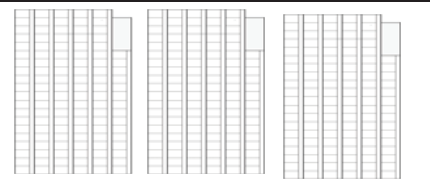
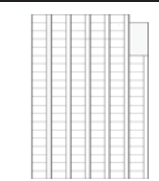
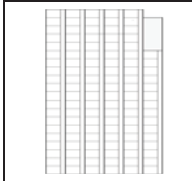
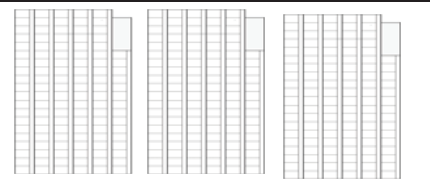
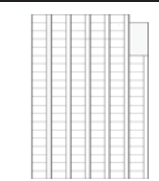
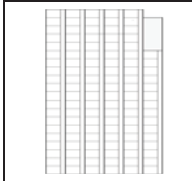
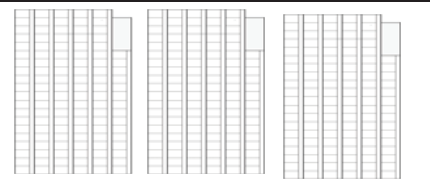
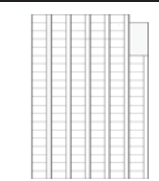



小学校第3学年におけるモデル文から段落の役割を理解する活動を通して
指導計画（6時間扱い）

時	学習活動・内容	指導上の留意点												
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 分かりやすい文章を書くひみつを見つけよう。 </div> 1 モデル文A・Bの違いをワークシートに書く。 2 ペアで、モデル文が分かりにくい理由を考える。 3 全員で、モデル文Bを分かりやすい文章に直す。 4 分かりやすい文章を書くためには、どんなことに気を付ければよいか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・二つのモデル文を用意する。 ・二つの文とも、児童が段落を意識しやすいように、一段落ずつ線で囲み、文や段落をつなぐ言葉に薄く色付けをし、児童が段落相互の関係を考えるときに注目できるようにしておく。 ・掲示用のモデル文Bは、段落ごとのシートに分けておく。 ・児童の意見を聞きながら、段落を入れ替えて、分かりやすい文章に直していく。 												
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「中」の部分の段落シートをならべよう。 </div> 1 「作文のまき」を読む。 2 取材カードを基に、段落シートに書く。 3 「作文のまき」を使って、段落シートの並べ方を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の児童の気づきを基に、「作文のまき」をつくっておく。絵巻物のような形にする。 ・段落の内容を考えるのに迷ったときは「作文のまき」を参考にするように助言する。 ・右肩を一マス分切り取ったマス目付の段落シートを準備しておく。 												
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「はじめ」と「おわり」の部分を書いて、5枚の段落シートをならべよう。 </div> <p style="text-align: center;">〈段落構成シート〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">おわり</th> <th style="width: 50%;">中</th> <th style="width: 20%;">はじめ</th> <th style="width: 5%;">題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ ○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td colspan="4">アドバイスカードをはるところ</td> </tr> </tbody> </table>	おわり	中	はじめ	題名				○ ○ ○ ○	アドバイスカードをはるところ				<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」と「おわり」を書く黄色の段落シートを用意する。 ・四つ切りのマス目画用紙で、段落構成シートを作っておく。
おわり	中	はじめ	題名											
			○ ○ ○ ○											
アドバイスカードをはるところ														
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 段落をつなぐ言葉を考えよう。 </div> 1 つなぐ言葉を考える。 2 「作文のまき」で確かめる。 3 推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぐ言葉が思いつかない児童のために、つなぐ言葉を書いたカードを用意しておく。 ・推敲カードを用意する。 ・読む人の気持ちになって、推敲す 												

<p>5</p>	<p>分かりやすい文章になって いるかグループで読み合おう。</p> <p>1 4人グループになり、友達の 作文を読んでアドバイスを 書く。 2 友達の意見を参考にして、 分かりやすい文章に書き直す。</p>	<p>ることができるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで推敲するアドバイスカードは、○と△の2段階で評価をする。△の評価の項目に対して、改善策を考えさせる。 グループの友達からのアドバイスカードは、段落構成シートにはるようになる。
<p>6</p>	<p>原こう用紙に、清書しよう。</p> <p>1 原稿用紙に清書する。 2 できあがった作文を読み、 学習の振り返りをする。</p>	<p>「作文のまき」免許状を準備しておく。</p> 

せつ分の日の豆まき

二月三日ごろの立春の前の日をせつ分とい
います。せつ分の夜には、豆まきをします。
家の外に向かって、「おには外」、家の中
に向かって、「ふくは内」と大きな声をかけ
ながら豆をまきます。しかし、「おには内」
というかけ声をかけて、全国からおい出され
たおにを助ける地いきもあるそうです。

なぜ、豆をまくかというと、豆には悪いも
のをおいはらう力があると信じられているか
らです。そのため、けんこうをねがって、自
分の年の数だけ豆を食べます。

また、おにをおいはらうために、ヒイラギ
の葉にイワシの頭をさしたものをかざる家も
あります。なぜなら、おには、とがっている
ヒイラギの葉やイワシのおいが、にが手だ
と考えられているからです。

このように、病気や悪いことをおににたと
え、一年間のみんなの幸せをいのって、毎年
せつ分の日には豆まきをするのです。

せつ分の日のお豆まき

また、おにをおいはらうために、ヒイラギの葉にイワシの頭をさしたものをかざる家もあります。

そして、家の外に向かって「おには外」、家の中に向かって、「ふくは内」と大きな声をかけながら豆をまきます。

なぜなら、おには、ヒイラギの葉やイワシが、にが手だと考えられているからです。

そして、なぜ、豆をまくかという点、豆には悪いものをおいはらう力があると信じられているからです。

そのため、けんこうをねがって、自分の年の数だけ豆を食べます。

でも、ぼくは、今年、豆を九こ食べます。

二月三日ごろの立春の前の日をせつ分といえます。せつ分の夜には、豆まきをします。

そして、病気や悪いことをおににたとえ、一年間のみんなの幸せをいのつて、毎年、せつ分の日にお豆まきをするのです。

分かりやすい文しよを書きひみつを見つけよう



番

一 作文AとBを読んで、気づいたことを書きましよう。

--	--

二 書いてあることが分かりにくいのは、AとBのどちらですか。

--

三 どうして、

--

は、分かりにくいのでしよう。

--	--	--

四 どんなことに気をつければ、分かりやすい文しよになるでしよう。

--	--	--	--

作文の書き方

★ 段落のじゅつ ★

その一 段落の中身を考えよう

④ 同じなかまの段落を合体させたり、近くにおいたりしよう。

その二 段落のじゅん番を考えよう

④ 読む人が分かりやすいように段落をつなげよう。

その三 段落と段落のつながりを考えよう。

★ つなぐ言葉のじゅつ ★

その四 段落と段落をつなぐ言葉を考えよう

注目する言葉

★ 奥義

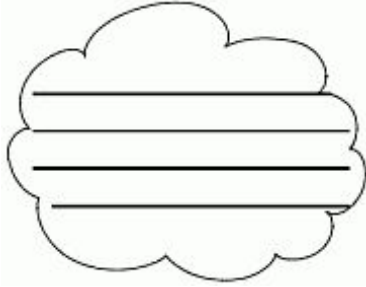
- はじめに 次 さいごに
- だから このように このことから
- しかし けれども ところが
- いっぽう これに対して 反対に
- それから また さらに
- なぜかという と 理由は
- すると そして それで
- たとえば れいをあげると

★ 書いた後に必ず自分で読み直そう。

(読む人のことを考えて)

★ ほかの人に読んでもらおう。
④ たりない言葉があったらつけたそう。・入れかえたいところは入れかえよう。

アドバイスカード

だい名と内ようは合っていますか。		こうするともっといいよ 
段落のじゅん番はいいですか。		
段落と段落のつながり方はうまくいっていますか。		
段落を分けた方がいいところがありますか。		
よくできている○ もう少し△		

推敲カード

か。	い	だ	い	書	読	読	読	読	読
段落を分けた方がいいところがありますか。	ますか。	い	い	いた内よう（名前や場所など）にまちがいはありませんか。	んだ人に内ようが正しく伝わりますか。	せつ明がたりないところはないですか。	け	ず	つ
		い	い				つ	つ	つ
		は	は				き	き	き
		は	は				り	り	り
		は	は				す	す	す
		は	は				る	る	る
		は	は				と	と	と
		は	は				こ	こ	こ
		は	は				ろ	ろ	ろ
		は	は				は	は	は
		は	は				な	な	な
		は	は				い	い	い
		は	は				で	で	で

読む人の気持ちになって読み直そう
○をつけてたしかめよう。